

留学生を受け入れる日本語教育機関
設置代表者 殿

一般財団法人日本語教育振興協会
理事長 佐藤次郎

令和6年度文部科学省委託「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発・普及事業」
留学分野のカリキュラムづくり・授業づくりのための教員研修の開催について（ご案内）

当協会の運営につきましては、日頃より御支援を賜り深く感謝申し上げます。

当協会では、文部科学省の委託を受け、令和6年度「留学分野における『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発・普及事業」に取り組んでおります。この事業は、令和4～5年度にかけて当協会が開発した留学分野の「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル」を広く普及させ、本事業終了後も、全国各所で継続的に教員研修が行われるための持続可能な基盤づくりを行うことを目的としています。

そこでこの度、留学生を受け入れる日本語教育機関の教員の方々に向け、「留学分野のカリキュラムづくり・授業づくりのための教員研修」を実施いたします。本研修は上述の教育モデルを基盤とし、「日本語教育の参照枠」を基本的に理解している教員を対象に、各機関におけるカリキュラムづくり及び授業づくりに関するワークショップを行うものです。

また、本研修を参考に各機関が「日本語教育の参照枠」を活用した教育実践に向けた教員研修をそれぞれの機関内で企画・実施していただくことを期待するものでもあります。併せて今後とも、よりよい教育モデル、よりよい研修プログラムへと向上させるために、本研修にご参加いただいた皆様にはアンケート等で率直なご意見をいただきたいと願っております。

受講希望者におかれましては 11月27日(水)までに、所定の応募方法にてご応募くださるようお願いいたします。なお、締め切り前でも定員になり次第終了しますのでお早目のお申し込みをいただけますようお願い申し上げます。

なお、本研修に係る修了証等は発行いたしませんので予めご承知おきください。

記

1. 研修目的：当協会が令和4～5年度にかけて開発した留学分野の「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル」を基盤としたカリキュラムづくり及び授業づくりに関するワークショップを行います。そのうえで本研修を参考に各機関が「日本語教育の参照枠」を活用した教育実践に向けた教員研修をそれぞれの機関内で企画・実施していただくこと。

2. 研修内容：【研修①②】共通「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデルの理解
【研修①】 教育モデルを活用したカリキュラムづくり
【研修②】 教育モデルを活用した授業づくり
3. 日 程：【研修①】「留学分野のカリキュラムづくりのための教員研修」
2024年12月8日（日） 10:00～16:00
【研修②】「留学分野の授業づくりのための教員研修」
2025年1月18日（土） 10:00～16:00
※いずれも、昼休み（12:00～13:00）と懇談会（参加任意、16:00～16:30）があります。
*詳細は「別紙」参照。
4. 研修形態：オンラインによるワークショップ
※ツールの使用やブレイクアウトルームでのグループワークもありますので、カメラ付きパソコンから参加してください。スマートフォンやタブレットからの参加は不可です。
5. 募集人数： 【研修①】100名 【研修②】100名
※それぞれ、1校につき1名のみ参加可能です。
機関ごとにお申込みください。個人名でのお申込みは受け付けませんのでご注意ください。
6. 参加要件：研修①と②の両方にご参加いただくことも、研修①②のいずれか一方にご参加いただくことも可能ですが、以下の要件をすべて満たす日本語教員であること。
【研修①②共通】・「日本語教育の参照枠」を基本的に理解していること
・事前課題に取り組んだうえで、ご参加いただける方
・全日参加可能で、研修後のアンケートにご協力いただける方
【研修①】告示校及び認定申請済み教育機関においてカリキュラム作成に携わる校長・主任教員・専任教員（1校につき1名のみ）
【研修②】告示校及び認定申請済み教育機関において授業を担当している教員で、本研修終了後に、自校の教員研修の企画・運営に携わる教員（1校につき1名のみ）
※【研修①②】いずれも、後日、メインルームのみの録画を期間限定で配信いたします。
動画 URL 等の詳細は、追って日振協ホームページからご案内いたします。
7. 参加費：【研修①】3,000円（税込） 【研修②】3,000円（税込）
8. 申込方法：研修①・②のお申込みはどちらも以下のフォームからお願いします。

研修①：<https://forms.gle/CmpmzyL4rC3xAwq4A>



研修②：<https://forms.gle/TeyfRTob5LmruBHG7>



※参加申込み受信後、3日以内（土日祝日除く）に、当協会から振込口座等が記載されたメールをお申し込み時のメールアドレス宛て返信します。メール受信後、参加費を期限までに銀行振込にてお支払いください。

9. 申込締切：2024年11月27日（水） ※締め切り前でも定員になり次第、終了します。

10. 事前課題：

※以下2つの事前課題は、研修①②に共通です。

・70分程度の動画視聴：動画URLはこちら→ <https://youtu.be/Oh5pi12Fqos>
令和4～5年度文化庁委託「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業」留学分野「成果報告会」の一部をご視聴いただきます。

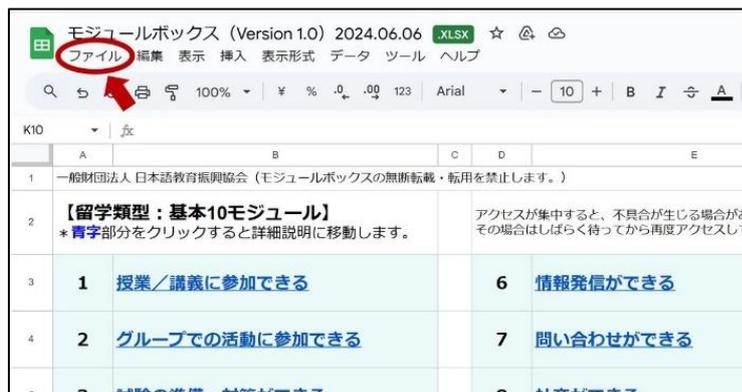
・「モジュールボックス」（以下のURL）を、事前にご自身のパソコン上にダウンロードし、全体の構成および操作ができるかどうかを確認しておいてください。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1s3GYY_biOqUfWxoN5x0bZ3HDVr0CCkvG/edit?gid=779381561#gid=779381561

※「モジュールボックス」を自分のパソコン上にダウンロードする方法：

- ①上記URLをクリック（下図のようなGoogleスプレッドシートが開きます）
- ②左上の「ファイル」をクリック（ア）
- ③「ダウンロード」をクリック（イ） → 「Excel (.xlsx)」をクリック（ウ）
- ④ご自身のパソコン上にダウンロードされます

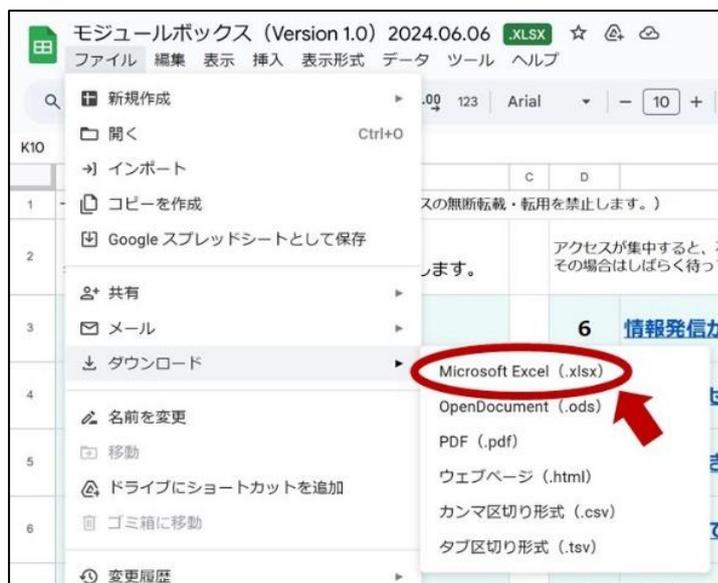
(ア)



(イ)



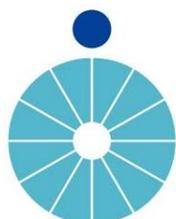
(ウ)



〈参考〉以下の資料の「2. モジュールボックスとは？」(pp. 8～14)を見ながら操作すると分かりやすいです。

○令和4～5年度文化庁委託「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業」留学〈報告〉別添

https://www.mext.go.jp/content/20240723-mxt_nihongo02-000036709_9.pdf



文部科学省



NISSHINKYO

担当：評価部 野田・塩原
e-mail : sansho.ryugaku@gmail.com

令和6年度文部科学省委託

『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発・普及事業
留学分野のカリキュラムづくり・授業づくりのための教員研修

【研修①】 留学分野のカリキュラムづくりのための教員研修

日時: 2024年12月8日(日)10:00~16:00

対象者: 告示校及び認定申請済み教育機関においてカリキュラム作成に携わる校長・主任教員
・専任教員(1校につき1名のみ)

研修目標: ・「日本語教育の参照枠」を活用した留学分野のカリキュラムづくりのプロセスを体験し、自らの機関に適したカリキュラムが作れるようになる。

・「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムづくりに向け、自らの機関に適した教員研修を企画・実施できるようになる。

10:00~12:00	開会
	「日本語教育の参照枠」の理解 自分が今どのくらい「日本語教育の参照枠」を理解しているかを確認します。
	ワーク①: カリキュラムの土台を考える カリキュラムづくりの概要を学びながら、教育理念やコースの枠組みを考えます。
12:00~13:00	昼休み
13:00~16:00	ワーク②: レベルごとの重点課題を考える Can do(課題)に基づくカリキュラムづくりを学びながら、レベルごとの重点課題を考え、整理します。
	ワーク③: 学期/レベルの学習内容を考える 重点課題をもとに学期/レベルを通した学習内容を考え、より細かなカリキュラムづくりに取り組みます。
	振り返り ワークで作成したカリキュラムを見ながら一日の学びを振り返ります。
	閉会
16:00~16:30	懇談会(参加任意) 興味のあるテーマについて、参加者同士で自由にお話いただく予定です。

*研修全体を通して、ブレイクアウトルームでのグループワークもあります。

(進行時間や内容は、一部変更することがございます。)

【研修②】 留学分野の授業づくりのための教員研修

日 時: 2025年1月18日(土) 10:00~16:00

対象者: 告示校及び認定申請済み教育機関において授業を担当している教員で、本研修終了後に、自校の教員研修の企画・運営に携わる教員(1校につき1名のみ)

研修目標: ・「日本語教育の参照枠」を活用した留学分野の授業づくりのプロセスを体験し、授業活動を自ら考えることができるようになる。

・自らの機関内の関係者と共に「日本語教育の参照枠」を活用した教育実践を行い、継続的に共有と研鑽を行うことができる。

10:00~12:00	開会
	「日本語教育の参照枠」の理解 自分が今どのくらい「日本語教育の参照枠」を理解しているかを確認します。
	ワーク①: 学習者の課題を想像する 「行動中心アプローチ」や「課題」について学びながら、学習者が日本語を使って行う様々な行動をイメージし、洗い出します。
	ワーク②: 学習者の課題を整理する 学習者が日本語を使って行う行動を10種類のカテゴリーに分類します。
12:00~13:00	昼休み
13:00~16:00	ワーク③: 授業における課題を選ぶ 学習者が日本語を使って行う行動の中から、日本語の授業において特に重視されると思われる課題(Can do)を抽出します。
	ワーク④: 課題達成のための学習活動を考える 学習者の課題(Can do)の達成に向けた学習活動を具体的に考えます。
	ワーク⑤: 自己評価表を考える 学習者の課題(Can do)の達成具合を確認するための自己評価表づくりに取り組みます。
	振り返り ワークで作成したカリキュラムを見ながら一日の学びを振り返ります。
16:00~16:30	閉会
	懇談会(参加任意) 興味のあるテーマについて、参加者同士で自由にお話いただく予定です。

*研修全体を通して、ブレイクアウトルームでのグループワークもあります。

(進行時間や内容は、一部変更することがございます。)

【研修講師】

以下の委員が、研修の講師を担当します。

〈留学分野の教育モデル普及検討委員会〉（五十音順、敬称略）

江副隆秀 新宿日本語学校 校長
奥村三菜子 NPO 法人 YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち 副理事長
亀田美保 大阪 YMCA 日本語教育センター センター長
竹田悦子 コミュニカ学院 顧問
山本弘子 カイ日本語スクール 代表

〈留学分野の教育モデル再検討・補填に関する委員会〉（五十音順、敬称略）

柏谷涼介 セントラルジャパン日本語学校 主任教員
久保田文子 京進ランゲージアカデミー日本語教務課 課長
佐久間みのり 横浜デザイン学院日本語学科 教務主任
野田敏郎 国際ことば学院日本語学校 校長
松葉優子 浜松日本語学院 校長

以上